

令和7年度 第1回 三島総合病院 地域協議会 議事録

開催日時: 令和7年10月16日(木) 13時～

場所: 三島総合病院 東棟大会議室

出席者: 委員) 吉富 雄治(一般社団法人三島市医師会会長)

石井 直子(三島市こども・健幸まちづくり部 健康づくり課長)

志村 肇(三島市谷田押切町内会役員)

病院) 赤倉 功一郎(三島総合病院院長)

大沼 以恵(三島総合病院看護部長)

渡辺 正芳(三島総合病院事務長)

林 恭平(三島総合病院事務長補佐(医事) 附属介護老人保健施設管理課
長補佐併任)

※順不同、敬称略

【次 第】

1. 病院長挨拶
2. 三島総合病院の現況について
3. 三島総合病院への要望事項について
4. その他
5. 閉会

- ・現況説明については配付資料参照のこと
- ・意見交換時の主たるテーマ、出席者の発言要旨は以下のとおり。
 - ・医師不足対策…本当に必要な診療科の医師確保がままならない

静岡県は医師不足対策として奨学金制度や地域枠を設け、県外医大生の実習受け入れや県内病院への就職を促進している。しかし、浜松医科大学の卒業生は県外に流出しやすく、東部地域への医師確保は依然として課題である。県は東部地域への医師定着策として、奨学金制度の拡充や研修医のローテーション制度の改善を検討しているが、具体的な成果は出ていない。産婦人科と小児科の医師不足は深刻だが、特に小児科は年間出生数が少ない地域では公益性の観点からも疑問視されている。むしろ内科外科の医師不足は深刻で、大学病院からの派遣も難しい状況。夜間休日の当直体制維持が困難で、外部からの派遣に頼るケースが増えているが、これも限界に近づいている。医師不足と働き方改革の影響で、夜勤を避ける医師が増えている。

- ・地域医療連携室をもっとアピールしてはどうか

地域連携室への相談が重要視されている。地域連携室は、患者紹介や退院後の施設・自宅への転院手続き、医師との予約調整など、患者と病院をつなぐ窓口として機能している。住民への周知不足が課題だが、地域連携室の活用を促すことで、医療へのアクセス向上と医師不足の緩和が期待される。相談窓口の存在を広く知ってもらうことが重要であり、看護師、事務職員、ソーシャルワーカーが揃っていることをアピールすべきである。また、入浴施設の拡充と送迎サービスの充実により、利用者数が増加しており、スタッフと環境の整備を進めている。

- ・シャトルバスの件…停留所を増やせないか

シャトルバスの利用状況は時間帯によって異なり、事故の影響で小型バスでの運行となっているが、新しいバスの導入を検討中である。農協から田町までの路線バス利用希望者への対応改善が求められている。地域連携室を活用し、無料相談や講演会を通じて病院のPR活動を強化し、患者増加を目指す。

- ・次回地域協議会は令和8年3月5日開催予定。

以上